

# 令和元年度 島田市立島田第二中学校



## 二中だより 9月号

☆校訓 **文化の薫る学校**

☆学校教育目標 「こころざしを持ち 自分の道を切り拓く生徒」

☆合い言葉 「愛 ・ 自治」

令和元年8月28日 発行

## 文化の薫る学校 「読書の秋！！」

和風月明では9月は長月。9月は稲穂が成長し、刈り入れ時期であることから稲刈月（いながりづき）になったという説があります。また、長月は今でいうと、10月から11月上旬にあたり、この時期は夜が段々と長くなっていくため夜長月（よながづき）と呼ばれ、ここから長月となったとも言われています。

さて、NHKクローズアップ現代「広がる読書<sup>もく</sup>～日本人に何が～」が以前、放映されたことがあります。都内のある大学では、2010年頃までは貸し出し数が増え続け、年間17万冊に達していましたが、2011年以降は、毎年1万冊のペースで減り続け、強い危機感を抱いているそうです。

人間の情報探索行動を研究している大学教授によると、最近の多くの学生たちはスマホの普及により、高い情報処理技術を身に付けてきているのは事実で、文章の一部をコピーしたり、貼り付けたりする技術はたいへん優れており、小論文など瞬時に完成させてしまうのだそうです。

一方、集めすぎた情報に振り回されたり、自分の意見の論理的展開ができなかったり、『どこに君の意見があるのか』と問い直すような論文が増えているそうです。人間の脳は、スマホの次々と場面が変わる映像を見て、一方通行に情報処理していきませんが、「読書」では、例えば「トンネルを抜けると雪国であった」という一節を読むことで言葉を視覚に変換し、そのイメージと合わせて意味を理解するのだそうです。このとき脳は、「どんな景色なのか、どんな人なのか」と視覚を掌る部分が動き出し、過去に見た風景などをもとに、想像を膨らませて本人固有のイメージができあがるそうです。「読書」による、こうした一連のサイクルは、創造力（考える力）を養うことに大いにつながるといいます。ネット検索は、浅い思考の反復になることがたいへん多く、本を深く読み、更に自分の言葉で再考することで思考は一層深まり、読解力を高めていくのだそうです。

さて、2020年から新しい大学入学共通テストが始まります。国語と英語の配点が他教科の倍（200点）とも言われています。現代は、読書の形態もさまざまになってきていますが、小説でなくても、伝記本、科学本、詩等も含め、自分に合った読書を始めてみませんか。

校長 池谷 英人